

サハリン官民共同企画ツアー皮切りに 極東ロシアを新デステイネーションに

4月16日から19日までの4日間にわたり、官民合同による「サハリン訪露ミッション」使節団がロシアを訪問しました。観光庁の金井昭彦審議官、JATAの菊間潤吾副会長、日本政府観光局（JNTO）の志村務総括理事をはじめ、航空会社や旅行会社などの関係者26人が参加した視察団は、サハリン州政府関係者などと官民共同企画ツアーなどについての意見交換会や現地の視察などを実施。日本側から表明されている双方向の交流人口40万人の目標実現へ向け、その最初のステップとして、JATAは極東ロシアのデステイネーション開発に力を注ぐこととなります。

素晴らしいシーフードを 前面に

極東ロシアに位置するサハリン州最大の都市・ユジノサハリンスクから北へ陸路で約2時間半。オホーツク海に臨む小さ

な漁村であるウズモリーエは、サハリン随一の蟹の産地で新鮮なタラバガニなどが大量に水揚げされており、豊富な海産物が並ぶ市場も活気に溢れています。甲羅が人の顔ほどの巨大なタラバガニをはじめ、ホタテ、イクラ、ウニなどの食



オホーツク海から水揚げされる海鮮食材は、サハリン観光の大きな魅力。とりわけ、巨大なタラバガニは、質量ともに一級品で旅行者の舌と胃袋を満足させてくれます

材は、日本から最も近いヨーロッパとして知られるサハリン州の新たな魅力として大いに注目されるものです。

JATAの菊間副会長は、「これまでサハリンへの旅行商品では『食』が前面に打ち出されることもなく、デステイネーションとして海産物のイメージは希薄だった観もあるが、オホーツク海から水揚げされるシーフードは素晴らしい、旅行業界としてもしっかりとその魅力をアピールして集客につなげていかなければならない」と強調しています。

日露間の交流拡大へ キックオフ

今年1月に実施された日露首脳会談では、日本側から相互の旅行者数を2023年までに、それぞれ少なくとも20万人、合計で40万人以上に倍増させるという目標が表明されました。

在ユジノサハリンスク日本総領事館によると、サハリンを訪れる外国人旅行者の中では日本人も多く、一定の存在感を示しています。

成田／ユジノサハリンスク間では、現在、オーロラ航空が週2便を運航しているほか、札幌／ユジノサハリンスク間でも



サハリン州立郷土博物館。日本統治時代に建てられた旧樺太庁博物館の建物です。

同航空が週4便を運航と、交通アクセスは充実しています。宿泊施設もグループ対応が可能なホテルが数多くあり、受け入れは十分です。

さらに、極東ロシアへの入国の場合には、電子ビザも取得できることから、ロシアの他の地域に比べると、旅行の環境も整えられています。菊間副会長は、「旅行業界として極東ロシアへのアプローチを強化していけば、来年には需要規模を倍増できるという意気込みで取り組んでおり、その目標は十分に達成可能なものだ」と指摘しています。

ツアー企画の内容充実へ 協力要請

4月17日にユジノサハリンスクにある

日露相互交流倍増の40万人へ 「サハリン訪露ミッション」使節団



サハリン州政府庁舎で実施された意見交換会

サハリン州政府庁舎で実施された日本からの使節団とサハリン州政府関係者との意見交換会では、日本側からサハリン州側に対して、今年夏の官民共同企画ツアーにおける企画内容の充実についての協力などを要請しました。

これに対して、意見交換会でサハリン州政府側の代表を務めた同州スポーツ・観光及び青年政策省のポドシバロフ次官は、観光分野における今後の日本側とサハリン州側との協力関係を歓迎する意向を示し、官民共同企画ツアーについても、日本側からの具体的な提案について対応を検討する考えを表明しています。



「ヨーロッパ」を美感させるユジノサハリンスクのロシア正教会

ルしてきたが、今回の官民共同企画ツアーでは、シーフードの本場であるウズモールエで海鮮食材を提供し、ロシアの民族舞踊や音楽を取り入れて紹介する目玉イベントなどもツアーの特別企画として検討したい」と説明。「今回の視察には含まれなかった訪問地や日本人向けの特別企画案、一般には開示されていない場所への特別入場なども含めた特別展示なども提示していただき、新たな素材をツアーに組み込むことで日本人旅行者をさらに増やしていきたい」考えを示しました。

来年はシベリアへの 取り組み強化

JATAアウトバウンド促進協議会（JOTC）ロシアワーキンググループは、官民共同企画ツアーを「サハリン大

日本とサハリン州との相互交流拡大を

観光庁 金井昭彦審議官



今年1月の日露首脳会談では、日本側から相互の訪問者数を2023年までに合計40万人に倍増させるという目標を表明しました。

観光庁としては、日露の相互交流を増やすことが両国関係にとって重要であると考えており、その中

でも、日本との距離に近い極東地域との交流は拡大の可能性が大きく、一層注力していきたいと考えています。今年の夏には、既に交流が盛んなサハリンで、更なる交流を加速するため、官民共同企画ツアーを企画しています。

今般のサハリンへの官民共同の訪露ミッションでは、サハリン州政府関係者等との意見交換会において、サハリンへの官民共同企画ツアーを中心に、相互交流の拡大に向けて、具体的な話し合いを行うことができました。サハリン州政府にもご協力いただき、官民共同企画ツアーを成功させることが、更なるツアー造成にもつながり、日本とサハリン州との相互交流拡大を加速させると考えています。

自然の旅」として催行することで合意し、今年6月から9月までの設定期間に参画旅行会社11社合計で400人の取り扱いを目指しています。

同ツアーでは、到着日に空港でのウェルカムイベントを開催し、ツアー参加者全員に記念品を贈呈することやフェスタ開催時に民俗舞踊と音楽の披露、サハリン州立郷土博物館の主要展示品に関する日本語パンフレットの作成、土産物の割引といった特典も検討されており、サハリン州側にも協力を求める考えです。

菊間副会長は、「サハリン州を中心に取り組む今年に続いて、来年はシベリア

のイルクーツクやカムチャッカなどへのチャーター便を運航し、極東ロシアとともにシベリアへの日本からの送客も拡大していきたい」と語り、今後の日露間の観光交流拡大に意欲を示しています。



サハリン州立郷土博物館に展示されている北緯50度の旧国境に置かれていた標石